

「令和5年12月18日公布 ボイラー及び圧力容器安全規則の一部改正」に伴う改正内容について

令和5年12月18日に安全規則の一部改正がありました。これに伴い、下記書籍の該当箇所が下記のとおり変更となります。

【[新版] 2級ボイラー技士試験標準問題集】

頁	改正前	改正後
172 設問と その 解説	<p>問1 ゲージ圧力 0.1 MPa, 最大電力設備容量 160 kW の電気を熱源とする温水ボイラーは、次のうちどれに該当するか。</p> <p>(1) 小型ボイラー (2) 第二種圧力容器 (3) 小型圧力容器 (4) ボイラー(小型ボイラーを除く。) (5) 第一種圧力容器(小型圧力容器を除く。)</p> <p>問 1 電気ボイラーは、その設備容量 20 kW を 1 m² とみなす(ボ則教本 1.3.4 参照)ので、160 kW の設備容量は 8 m² とみなされる。したがって、圧力が 0.1 MPa で伝熱面積 8m² の温水ボイラーは小型ボイラーである。 (ボ則教本 1.1, 図 1.1 参照) 答え(1)</p>	<p>問1 ゲージ圧力 0.1 MPa, 最大電力設備容量 480 kW の電気を熱源とする温水ボイラーは、次のうちどれに該当するか。</p> <p>(1) 小型ボイラー (2) 第二種圧力容器 (3) 小型圧力容器 (4) ボイラー(小型ボイラーを除く。) (5) 第一種圧力容器(小型圧力容器を除く。)</p> <p>問 1 電気ボイラーは、その設備容量 60kW を 1 m² とみなす(ボ則教本 1.3.4 参照)ので、480 kW の設備容量は 8 m² とみなされる。したがって、圧力が 0.1 MPa で伝熱面積 8m² の温水ボイラーは小型ボイラーである。 (ボ則教本 1.1, 図 1.1 参照) 答え(1)</p>
178 設問と その 解説	<p>問12 「電気ボイラーの伝熱面積は、電力設備容 <input type="text"/> kW を 1 m² とみなしてその最大電力設備容量を換算した面積をいう。」</p> <p>上文中の <input type="text"/> 内に入れる数字として、正しいものは次のうちどれか。</p> <p>(1) 1 (2) 2 (3) 5 (4) 10 (5) 20</p> <p>問12 電気ボイラーの伝熱面積は、最大電力設備容量 20 kW を 1 m² とみなす。(ボ則教本 1.3.4 参照) 答え(5)</p>	<p>問12 「電気ボイラーの伝熱面積は、電力設備容 <input type="text"/> kW を 1 m² とみなしてその最大電力設備容量を換算した面積をいう。」</p> <p>上文中の <input type="text"/> 内に入れる数字として、正しいものは次のうちどれか。</p> <p>(1) 3 (2) 6 (3) 15 (4) 30 (5) 60</p> <p>問12 電気ボイラーの伝熱面積は、最大電力設備容量 60 kW を 1 m² とみなす。(ボ則教本 1.3.4 参照) 答え(5)</p>

頁	改正前	改正後
187 設問	<p>問29</p> <p>二級ボイラー技士をボイラー取扱作業主任者として選任することができるボイラーは、次のうちどれか。</p> <p>(1) 伝熱面積が30 m² の鋳鉄製蒸気ボイラー</p> <p>(2) 伝熱面積が30 m² の鋳鉄製温水ボイラー</p> <p>(3) 伝熱面積が25 m² の立てボイラー</p> <p>(4) 伝熱面積が200 m² の貫流ボイラー</p> <p>(5) 最大電力設備容量が <u>500</u> kW の電気ボイラー</p>	<p>問29</p> <p>二級ボイラー技士をボイラー取扱作業主任者として選任することができるボイラーは、次のうちどれか。</p> <p>(1) 伝熱面積が30 m² の鋳鉄製蒸気ボイラー</p> <p>(2) 伝熱面積が30 m² の鋳鉄製温水ボイラー</p> <p>(3) 伝熱面積が25 m² の立てボイラー</p> <p>(4) 伝熱面積が200 m² の貫流ボイラー</p> <p>(5) 最大電力設備容量が <u>1500</u> kW の電気ボイラー</p>